

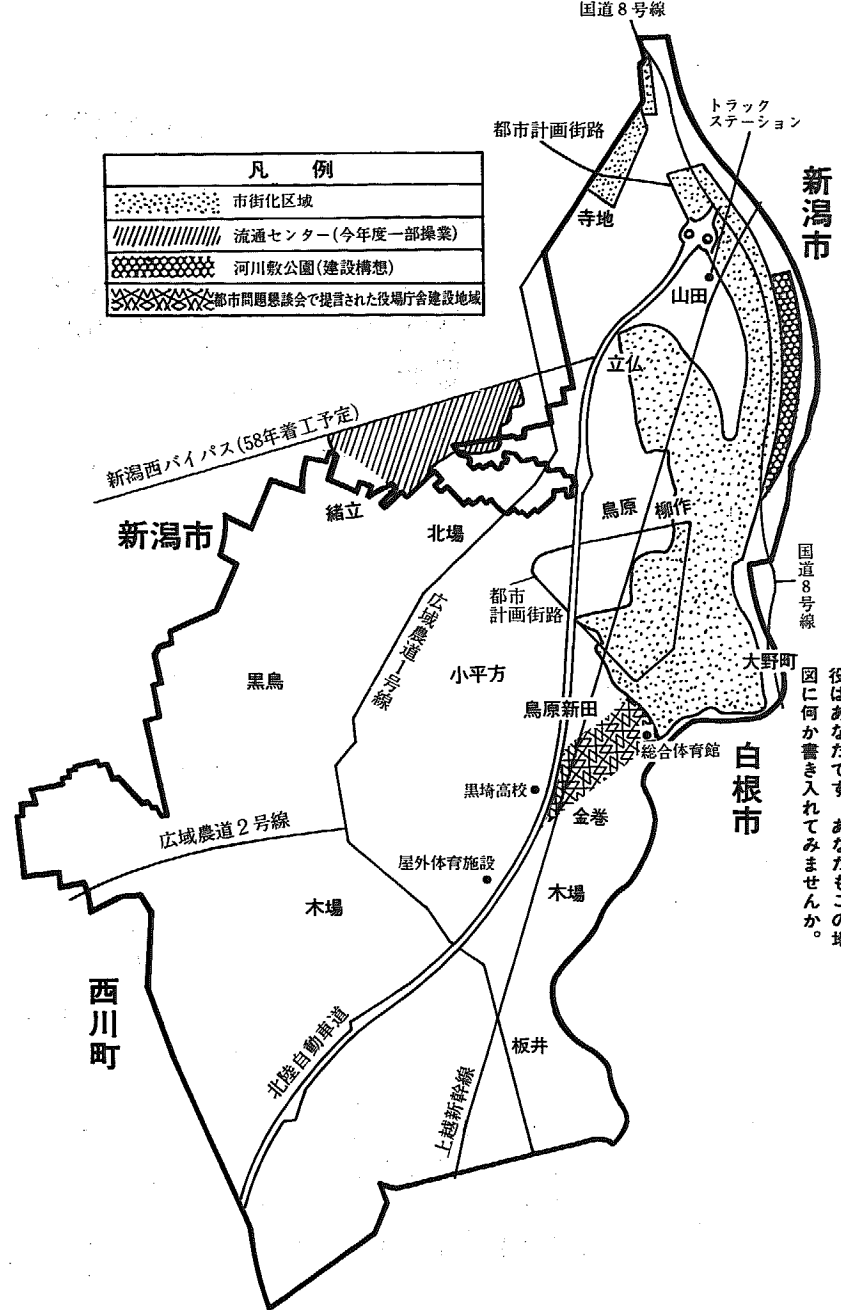
ることが出来る。
それをさらにすすめて考えると、体育館と黒崎高校を包含する地域の中で、既存の施設、五十四年に策定されている※6農村総合整備計画とタイアップするコミュニティセンターとして、役場機能の一部を分担させる構想の中で、役場庁舎の建設の地域を考えることが出来る。この考え方は、懇談会の中では多数の意見になっている。
役場庁舎位置を人口集中地域、黒崎北部新潟より考えることは現段階では一見有効のようであるけれども、黒崎町が主体的な田園都市として、町部と農村部が共存し、新潟市、周辺市町村と機能分担してゆくには、やや南部を考えることが、黒崎町の将来の発展に通ずると思われる。

注 釈

※3下の地図を参照
※4各論は八月をメドにまとめる予定。
※6農村総合整備計画とのタイアップとは、現在町が進めている通称農村総合センターの建設計画があるため、これらも包含してコミュニティセンターをつくらうとするもの。

30年後この地図は？

三十年後、果たしてこの地図はどう塗り変えられているでしょうか。このままの状態でないことだけは確かです。
将来を予想するためには、過去そして現在をじゅうぶんに認識しなければなりません。黒崎町の主役はあなたです。あなたもこの地図に何か書き入れてみませんか。



将来は？

地黒崎町商業の中心商業地として強化し、隣接する都市との競合に対応できる体質づくりを行うこと。
三、大野地区商業地を形成する各商店街は、いずれも自然発生的商店街で、街区施設の不備が目立つ。これから地区型商業地の中の街区区整備を意図的、計画的に整備し、活性化していくことが必要である。
四、黒崎町の中心商業地を構成している各経営者は、組織活動の必要性を認識し、事業活動を積極的に展開できる組織に強化すること。
五、経営者は、自店の体質を強化するため、環境変化に対応できる経

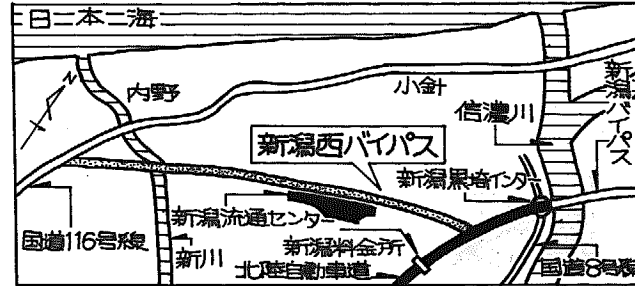
営体質のレベルアップをはかること。などを強調。参加したおおよそ百人の経営者は真剣な面持ちで一言一言にうなずいていました。
商工会ではこの勧告を肝に命じ研究会を行い、方向づけをどのようにするか急ぎたいとしています。今回の商業診断以前に若者(三十歳代、四十歳代)に異状な熱意が感じられたと関係者は語っていました。「明るいいきざしは見えます。大野町商店街はきつと活発になります。しなければなりません」と厳しい表情の中に一灯の明るさがかがえました。

新潟西バイパスルート発表

柏崎市から新潟市に至る、国道116号バイパス(新潟西バイパス)のルートが、一月十六日建設省北陸地方建設局から発表されました。新潟市會和地区から現道と分かれ、本町立山地区の北陸自動車道に接続する、延長七・二km、往復四車線が早ければ五十八年に着工のはこびとなる模様です。
これは116号の交通緩和をはかるため、以前から建設の要望が強く、さらに新潟市が進めている流通業務センターの操業にともない交通量も増加することから、流通システムのレベルアップをはかる意味からも必要不可欠のもので、計画ルートは前述のように(図面参照)新潟市會和の県公害研究所付近で116号と分かれ、西川南側の水田地帯を東進して、流通センター北側に沿って、本町の立山付近で北陸自動車道に接続する構想。
構造は往復四車線。両側に側道をもつ亀田バイパスや新潟バイパスと同様のものとなります。この建設で北陸自動車道の同バイパス接続点からインターチェンジまでの一・四km間を両側に一車線ずつ増やし六車線とし、交通量の増大に備える予定。
総事業費は百四十億円、全線完成は十年後と予定されています。

黒崎町の商業の

広域商業診断報告会



一月十八日(月)、大野町公民館で、浅妻町長、鳴海議長をはじめ、商工業者、商工振興審議会委員、都市問題懇談会委員、議会議員、大野地区自治会長など約百名が出席し、広域商業診断(実施機関新潟県、協力機関黒崎町、大野町商工会)報告会が行われました。
診断の目的は、黒崎町商業の近代化の目標を明らかにすること。さらに、その実現のために具体的な方策を示し、地域商業の発展をはかるというものです。
この日中小企業診断士の野元操氏が報告を行い、今後の大野町商店街の進むべき道はどうかあるべきかなどを説明し、次の五点を勧告しました。
一、黒崎町商業は白根市、味方村の北部の一部を商圏に包含した地区型商業地を指向すること。
二、大野地区商業地は、地区型商業